D 6　親子二世帯同居家族の住まい方
その2. 生活行為別にみた親・子世帯の共同志向

日本女大家政　○樋口真基子　適山千賀子　沖田富美子

目的　その1*では親子二世帯家族の同居理由，住戸内での親子世帯の各専有面積，生活空間の共用率，生活行為の共同率の現状について報告した。本報では炊事・食事・団欒・洗濯・洗面・入浴の6つの生活行為に焦点をあて，親子世帯の共同に対する意識の違いを検討する。

調査方法及び対象　その1と同じ。　但し本報では第2回調査の結果について分析する。

結果　①炊事―夕食の炊事を共同でしている家族は70.0%であり，その理由のうち「経済的だから」とするものが一番多く40.0%を占めている。今後も経済的・能率的な理由で親子世帯ともに共同志向が強い。②食事―夕食については70.0%の家族が共同で，その理由は両世帯とも「いっしょに住んでいるのだから」とするものが一番多い。なお　今後も食事の共同志向は強く，特に親世帯は70.0%のものが共同を希望しているが，子世帯には「食事の好みが違うから」という理由で分離志向もみられる。③団欒―夕食後の団欒を共同でしている家族は60.0%ある。今後両世帯とも「共用の一室の他に各世帯に必要である」とし，各世帯の団欒室が確保された上での共同志向が望まれている。特に親世帯では　現在一緒に団欒しているもので今後も「両世帯に一室だけでよい」とするものがおり，子世帯よりも共同志向が強い。④洗濯―洗濯機は共用のものを使い(72.5%)別々に洗濯している家族が多い(52.5%)。「能率的だから」という理由が一番多く，今後も両世帯共用の洗濯場で別々に洗濯する分離志向が強い。⑤洗面―洗面については現在，洗面所を共用している家族は52.5%であるが今後は両世帯とも分離志向がやや強い。⑥入浴―72.5%の家族が浴室を共用しており，今後も両世帯ともに共用志向が強い。（* 日本建築学会秋季大会において発表　1981.9.）